

Structure Kansai No.163 2024.10

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

JSCA関西支部
RC分科会
PC・工業化分科会
拡大分科会報告
大林組笹元克紀(RC分科会主査)

古島正博(PC工業化分科会主査)



1. はじめに

2024年5月9日(木)にJSCA関西RC分科会とPC・工業化分科会との合同での拡大分科会を「最新RC・PC技術とその応用: 研究と事例の最新動向から」というテーマにて開催されました。

今回の拡大分科会は、第1部は横浜国立大学杉本先生によるご講演、第2部は分科会メンバーの所属会社3名の方に最新事例をご紹介いただくという内容になりました。

当日は、対面のみによる開催となりましたが、70名の方に参加頂きました。

2. 発表の概要

・開催挨拶 吉田聡氏

(JSCA関西 技術委員長)

・第1部: 最新の研究紹介

杉本訓祥先生(横浜国立大学)

・第2部: 最新の事例紹介

① 立命館アジア太平洋大学

AP House 5

村上友規氏(竹中工務店)

② 土管のゲストハウス

多田卓二氏(北條建築構造研究所)

③ 名古屋造形大学

松本孝雄氏(建研)

3. 開催挨拶

まず、本拡大分科会の開催にあたり、JSCA関西技術委員長の吉田氏からJSCA関西技術委員会とその分科会の活動について、ご説明がありました。

4. 第1部: 最新の研究紹介の概要

杉本先生から、2002年に刊行された日本建築学会「現場打ち同等型プレキャスト鉄筋コンクリート構造設計指針(案)・同解説」の改定版の方向性について紹介があり、プレキャスト鉄筋コンクリートと現場打ちコンクリートとの大きな違いは接合部の仕様と性能であり、プレキャスト事例としては

特殊な形状の部位や大断面部材に適用されることが多いと説明がありました。

最近の研究事例として、RC構造の復元力モデルにTAKEDAモデルが使われていることが多いですが、主筋の付着性能によりSLIP型のモデルが適合する場合もあり、スラブ付き鉄筋コンクリート梁の主筋の付着挙動について、スラブが付く上端主筋よりも下端主筋の方が、すべり量が大きくなり、付着の余裕度が小さい試験体は明確なすべりが見られる結果になっていると説明がありました。

また、梁をヒンジロケーションすると柱梁の接合部の性能が良くなるのは、柱梁接合部の通し配筋の付着が、材端部からヒンジ位置の2/3程度まで付着長さに見込めるためではないかと説明がありました。2000年以降、RC建物はスラブ厚が増大している傾向があり、スラブの協力幅については検証が必要というお話がありました。



5. 第2部: 最新の事例紹介の概要

① 立命館アジア太平洋大学

AP House 5

階数: 地上4階

構造: 鉄筋コンクリート造

延床面積: 約6,200㎡

寮室部の戸境壁を手裏剣形に配置し、剛心と重心を概ね一致させている。

開放性・眺望、プライバシーを確保するために、建物外周部に斜め壁を配置している。戸境壁及び斜め壁ともに、サイトPCa化にて施工しており、合理的で高い品質を確保した。

共用部は、300N/mm²の超高強度コンクリート細柱(φ195mm)で支持するフラットプレート構造としており、パンチングに対する安全性を確保するために仕口部も300N/mm²の強度で設計し、PCa部材として施工した。

細柱には、できるだけ曲げが作用しないように接合部内の主筋にテープを巻き、仕口

の回転性能を確保した。

300N/mm²の超高強度コンクリートの開発は、材料・製造・養生技術を向上させて実現した。

② 土管のゲストハウス

階数: 地上2階

構造: PCaPC造・一部S造屋根

延床面積: 約300㎡

4本のボックスカルバートを井桁状に組み、中央部に鉄骨屋根をかける計画である。

躯体は約2.5m四方のPCa部材とし、柱せい、梁せい、壁厚、床を250mmで統一した。

PCa部材間は、現場にてPC鋼より線またはPC鋼棒により圧着接合した。

壁内に柱及び梁を内蔵しないと大臣認定及び限界耐力計算となるために、壁内に柱及び梁を内蔵する計画により一般建築確認申請とした。

③ 名古屋造形大学

階数: 地上4階、地下1階

構造: 鉄筋コンクリート造(柱・耐震壁)

鉄骨造(梁・トラス)

プレキャストコンクリート造

(SPC格子壁・SPC外周トラス)

延床面積: 約20,900㎡

104m×104mの巨大スタジオを4つのピア(Pier)で支持し、各ピアにアウトフレーム型のSPC格子壁を耐震要素として配置している。

SPC格子壁は、約200×200のコンクリート格子壁に鋼板を張り合わせており、鋼板で全水平力を負担させ、コンクリートは座屈止めとして設計している。SPC格子壁は性能試験を実施して、解析と同等の耐力・剛性であることを確認している。SPC外周トラスは、先端の柱はPCa柱、斜材には約100角のTMCP440材を用いている。

6. おわりに

近年、RC構造は、解析技術やPCa技術の進歩によって、意匠性に配慮した創意工夫された建物が多くなってきており、拡大分科会での研究及び事例を紹介させて頂きました。

今回の拡大分科会の開催を通して、RC系の分科会の活動にご興味を持たれた方は、RC分科会またはPC・工業化分科会へのご参加をお待ちしております。

(参加申し込みは、JSCA関西事務局まで)

JSCA若手技術者育成講座報告



株式会社
山田建築構造事務所
友田 響平

令和6年3月5日、大阪科学技術センターにて開催された「JSCA第26回若手技術者育成講座」に参加させていただきました。

講座内容は、受講者4～5人1組のグループで延べ床面積2,000m²以下の店舗の設計を昨今の課題である脱炭素社会の実現に向けた取り組みを盛り込んで行い、最後に質疑応答を含めて15分程度で発表するというものでした。



写真1 グループワーク風景

ひと通りの課題説明の後、グループワークが始まり、敷地の選定からすることになりました。課題説明の中で例として出されていた京都北白川は京都芸術大学近く、北大路通に隣接した整形な土地が取扱商品や利用用途、利用客層について想定しやすく、設計に反映できると考え敷地に設定しました。入り口付近に芸大生のための大型作品でも展示できる吹抜スペースを設ける意匠計画の方向性は早いうちに決まったのですが、意匠計画は学生の頃に課題でしたくらいで、実務

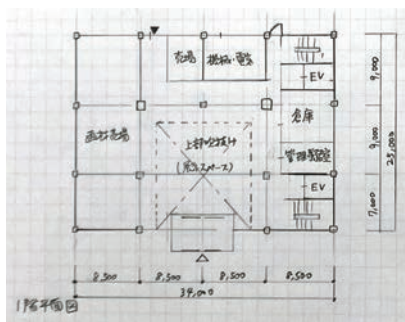


図1 1階平面図

では専ら構造設計を扱ってきたため、必要な部屋数や導線を検討した意匠計画の決定と構造計画とのすり合わせに苦慮しました。最終的に、前面道路側壁面に大開口を設けるために、展示スペース上部吹抜部分の大梁をなくす構造計画となりました。

計画が定まってからはスムーズに進み、各人に割り当てられた箇所の構造計算を行い、プレゼンテーション資料を作成しました。計画作成に時間がかかってしまい、駆け足の構造検討となってしまいましたが、計画段階で詰め切れていなかった部分も、構造計算・作図を進めていく中で気が付いたことを各々相談し解消していくことで、制限時間の中でより良いものを設計することができたと思います。

最後に各グループの成果発表を行いました。他のグループでは、吊り材やトラス構造を用いたり、屋根に木質材料を使

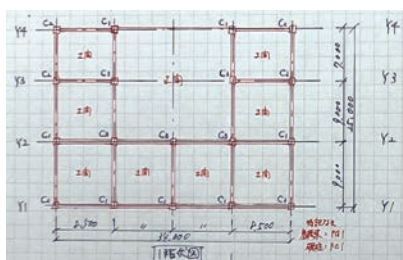


図3 1階伏図

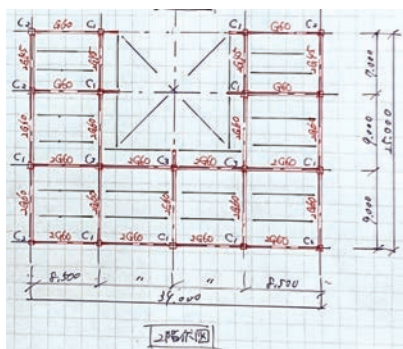


図4 2階伏図

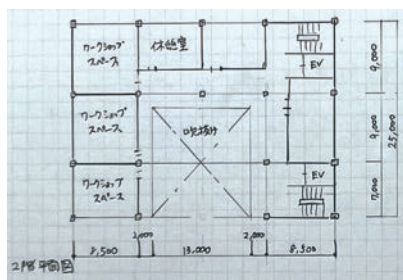


図2 2階平面図

用したりすることで個性を出されており、個人的にもう少し意匠的にも構造的にも凝った計画を提案できたのではないかと感じました。また、今回、特殊な条件として設定されていた脱炭素社会の実現に向けた取り組みについては、どのグループも基本的に電炉鋼と高炉C種セメントを使用することとしており、中には前出の2つに合わせて木質材料の使用や太陽光パネルの設置を脱炭素社会の実現に向けた取り組みとしているグループもありました。建築構造的な観点で脱炭素社会の実現に向けた取り組みに応用できる技術に対する知識が自身に不足しており、もう少し設計に盛り込むことができたのではないかと勉強不足を反省しました。これからの社会の環境に対する建築が抱える課題に常にアンテナを張り、いついかなる設計依頼でも対応できるようにしておきたいと思いました。

今回の講座を受講して、普段の業務では意匠設計者が行っている意匠と構造をすり合わせまとめるという部分を経験できたことで、構造設計者も意匠的に考える大切さを改めて実感することができました。また、実務では構造設計者と関わる機会があまりなかったため、同業他社の方々と関り、構造設計者としての自分自身の位置を知る良い機会となりました。

構造設計者として仕事をする上で大切なことは、構造計算といった構造技術だけではなく、考え方の違う他者と協働して物事をまとめていくためのコミュニケーション能力と自身の考えを説明できるだけの知識やその知識を生かすために、構造を含めた大きな括りとしての建築に対する理解が必要であると、本講座を受講して感じました。今回の演習を通して感じた自分自身の未熟な部分を見つめ直し、改善していくことでこれからの業務に活かしていくとともに、同世代の構造設計者から受けた刺激を忘れずに日々精進していきたいと思えます。

おわりに事業委員長である日本設計の上森氏をはじめ、最初から最後まで温かい目で見守っていただき、ご指導いただきましたインストラクターの諸先輩方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

ジオタワー大阪十三

制御層制震構造を適用した構造設計



鹿島建設
建築設計本部
河野 賢一

■建物概要

ジオタワー大阪十三は、阪急電鉄「十三」駅から徒歩3分に立地する地上39階、地下1階、延べ面積は約84,480㎡の複合開発建物である。本建物は、緑、水、光と風をテーマに低層部には商業施設や図書館など多彩なコンスペースを備え、4階から上階には住宅を配している。完成予想パースを図1に示す。



図1 完成予想パース

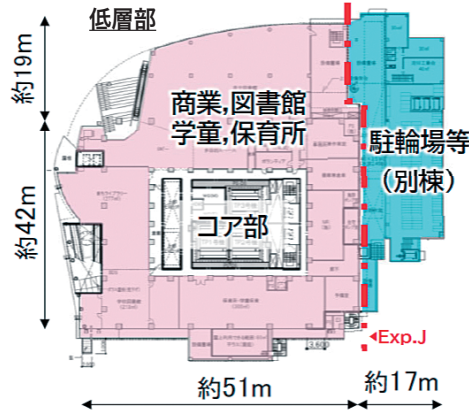
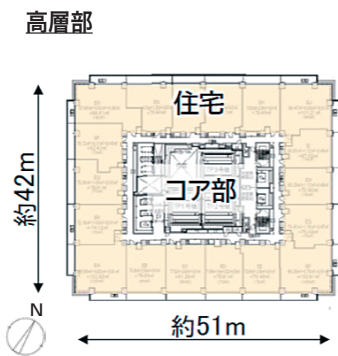


図2 代表建築図

■建築計画

高層部の基準階平面は、約51m×42mの長方形の外形で、中央に約32m×22mのコア部分が設けられ、4周を囲むように居室空間が配置されている。低層部（1階から3階）は北側に円弧状に広がり、東側には駐輪場等の別棟4階建てが隣接する。代表建築図を図2に示す。

■構造計画

構造は地上・地下とも鉄筋コンクリート造（一部、鉄骨造）であり、基礎は杭基礎としてGL-60m付近のN値50以上の堅固な砂・砂礫層に支持している。

地上階は、外周とコア部に柱と梁を集約したチューブ架構形式を採用し、大型スラブを配置することで居室空間内に柱や梁の出ない自由な空間を創出している。基準階の構造計画図を図3に、構造躯体のパースを図4に示す。超高層鉄筋コンクリート技術「HiRC工法」によって高強度鉄筋や高強度コンクリートを用いて高い耐力と粘り強さを兼ね備えた柱・梁を構築している。

また、建物の上から約1/3の位置に、免震支承やオイルダンパで構成される制御層を設けており、図5に示すように、地震時に制御層が変形することで、制御層から上の躯体には

免震効果を、制御層から下の躯体にはTMD制震効果を与え、建物全体に大きな制御効果を付与する制御層制震構造（KaCLASS※）を適用し、高い安全性を確保している。

■フェイルセーフ機構

なお、制御層には、図6に示す新開発の摩擦バッファをフェイルセーフ機構として組み込んでいる。設計想定を超える大きさの地震の際には、摩擦バッファが機能し、衝撃を和らげながら制御層の動きを所定の変形（躯体クリアランス）以内に抑えることができる。

※ Kajima Control Layer Advanced Structural System

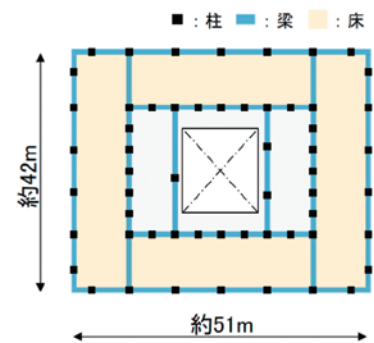


図3 基準階の構造計画

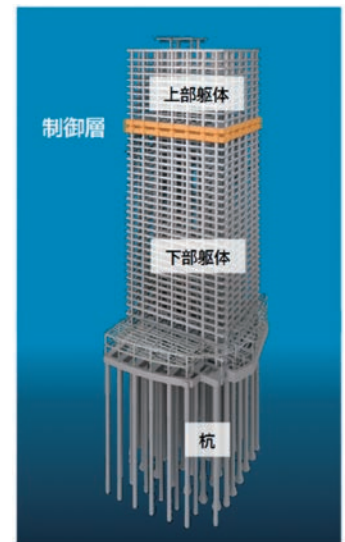


図4 構造躯体のパース

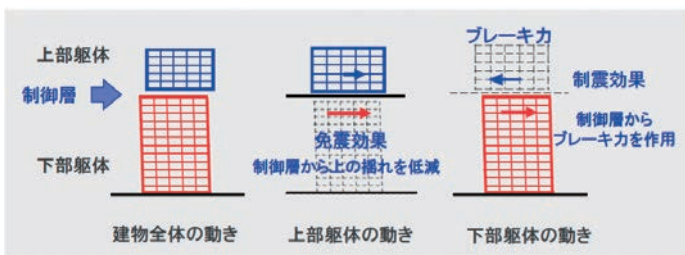


図5 KaCLASSの構造原理

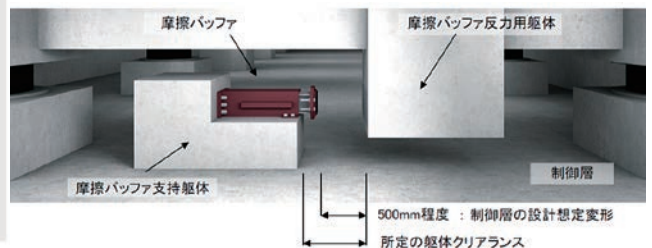


図6 摩擦バッファの外観

淀屋橋駅西地区第一種市街地再開発事業
の構造設計



日建設計
エンジニアリング部門
構造設計グループ
榊原 啓太

■建物概要

本建物は、御堂筋と土佐堀通の交差点に位置し、大阪市内のオフィス街の中心的立地に計画された。計11棟を建替える第一種市街地再開発事業であり、都市再生特別地区等を利用し、土地の有効利用および業務機能の高度集積を図るものである。

地下2階は駐車場、地下1階～地上2階、11階の一部を商業エリアとし、構造乗り換え階の10階を機械室、その他の階はオフィスとして計画している。

建築概要

- 延床面積：約132,000㎡
- 建物規模：地上29階、地下2階
- 建物高さ：約135m
- 竣工予定：2025年12月
- 設計者：日建設計
- 施工者：大林組



図1 外観パース

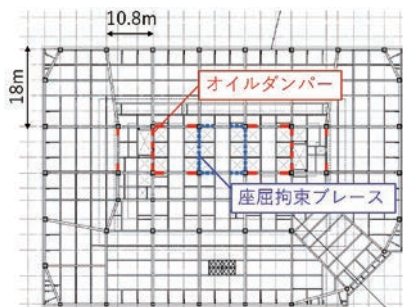


図2 低層階床梁伏図

■構造計画概要

極稀に発生する大地震（レベル2）に対して層間変形角1/125以内（せん断変形成分）に加え、JSCA上町地震動3Bに対して限界状態I以下とすることをクライテリアとして構造計画を行った。

地上階は鉄骨造で、22階以下の柱はコンクリート充填鋼管（CFT造）とし、23階以上の柱は鉄骨柱としている。外周部の柱スパンは10.8m、オフィス内は最大18mスパンで計画した。センターコア型の形状であり、基準階のコア内には履歴型ダンパー（座屈拘束ブレース）および速度依存型ダンパー（オイルダンパー）を用いた制振構造としている。（図2）

せん断変形成分の大きい低層部に集中的にオイルダンパーを配置し、高層部は座屈拘束ブレースを多く配置する構造計画とした。また、オイルダンパーは定期点検や非常時の交換を考慮して、EV背合わせになる箇所を避け、点検窓を設けることのできる位置に限定して配置した。

下部構造・基礎はSRC造及びRC造とし、地下階の梁は鉄骨梁とすることで、工期の短縮を図った。地下のRC壁周辺の梁はSRC造としている。

地業は場所打ちコンクリート杭（拡底杭）とし、高層部を支える高軸力部については約SGL-56.5m以深にある洪積砂礫層（第2天満層）を、その他の杭は約SGL-35.0m以深にある洪積砂礫層（第1天満層）を支持層とした。

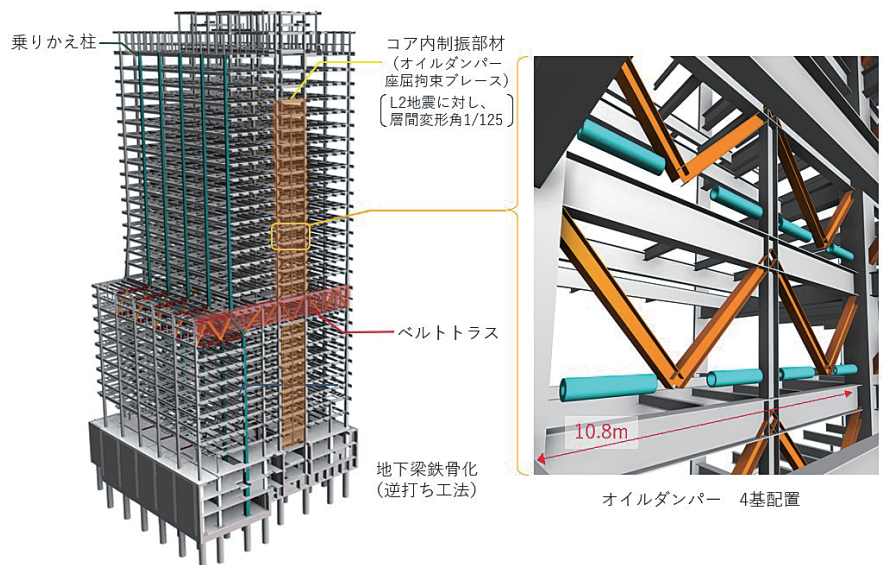


図3 構造パース

■10階中間機械室を利用した柱乗換

「御堂筋デザインガイドライン」により高さ約50mに基壇部を設け建物をセットバックさせる必要があるため、10階に設けた階高7.8mの機械室を利用して約4.5mの柱乗換を行った。加えて、アスペクト比の大きな短辺方向の曲げ戻し効果を得るために、ベルトトラスを配置した。（図3,4）

トラス階は高層基準階の高軸力を負担することに加え、建物の重要箇所であることから、水平力に加えて上下動を考慮しても弾性限耐力以内となるように別途クライテリアを設けた。梁、斜材共にBOX断面を採用し、高い剛性と高耐力を確保できる部材構成とした。（図5）

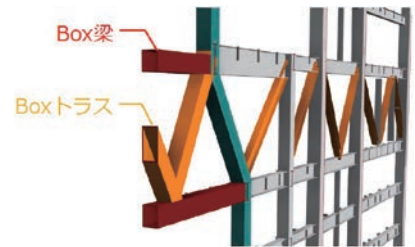


図5 BOXトラス概要

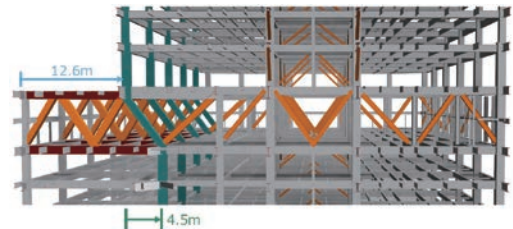


図4 10階トラス概要

JSCA関西 U-45 Next Generationの活動について



(株) 山田建築構造事務所
宮崎 英也

■はじめに

島野支部長が昨年5月のJSCA関西支部総会にて『世代を超えて、そして会社の枠を超えて、JSCAで仲間と楽しむ』という活動方針を掲げられました。JSCA関西のあるべき姿の実現に向けた取り組みの1つとしてJSCAの将来を担う若手構造技術者の交流の活性化を目的とした活動を計画しました。

■JSCA関西支部青年部会準備WG

昨年11月から準備WGを立ち上げ、計8回の打ち合わせを行いました。内容は下記の通りです。

会の名称はJSCA関西U-45 Next Generationとします。

活動の位置付けは、若手が主体的に柔軟性のある活動ができる自主的な交流の場を目指します。

参加者は45歳以下をターゲットとし、会の立ち上げ後には非会員の参加も検討します。

開催場所はJSCA関西（オンライン会議併用）、所属会社の会議室等です。

主な企画内容は以下のとおりです。

- ・若手技術者を対象とした講習会・見学会・研修会。
- ・若手技術者の構造デザイン発表会。
- ・テーマを決めての意見交換会。
- ・各分科会・拡大分科会の参加。
- ・賛助会員からの製品説明会と工場見学会。
- ・他支部や他団体の青年部会との交流。
- ・大学の先生を招いた講演・交流。

■アンケートの実施

参加者募集に先立ち45歳以下のJSCA関西会員（115名）にアンケートを実施して意見を求めました。34名から回答があり、以下のような意見がありました。年齢制限の必要性に関する問いに対しては、「年齢制限は必要」という意見が多く、その上限は40歳、45歳という回答でした。本会の会員構成についてはJSCA会員のみ限定するよりも、非会

員を含めたほうが良いという意見や、幅広くメンバーを募り、偏りなくバランスの取れた構成がよいという意見がありました。企画内容は若手技術者を対象とした講習会が最も多く、次いでテーマを決めての意見交換会、他支部青年部会との交流など、コミュニケーションを主体とする企画に票が集まっています。

■コアメンバーの募集

活動を進めるにあたり、45歳以下のJSCA関西会員からコアメンバー（世話役）を募集して7名の応募がありました。準備WGに参加してもらい、意見交換を行って今後はコアメンバーが中心に企画・立案を進めることになりました。

■今後の進め方

コアメンバー(現7人+α)がやりたいと思うことから企画していただきます。まずは、コアメンバー企画と45歳以下の全メンバーから参加者を募る全体企画にわけて実施します。本年度の開催頻度は前者が年4回程度とし、後者が年2回程度を目安に進めます。45歳以下の会員の皆様には積極的な参加をよろしくお願いたします。

JSCA関西特別委員会 「脱炭素推進委員会」設立について



株竹中工務店
前川 元伸

■JSCA関西特別委員会「脱炭素推進委員会」の設立

2023～2024年度JSCA関西支部の取組みの一つである「脱炭素社会実現に向けた活動の推進」として、2024年6月に「脱炭素推進委員会」が設立されました。

2023年11月に立ち上がった「脱炭素推進準備WG」において、脱炭素の観点から「JSCA関西として何ができるのか、構造技術者として何ができるのか・何をしなければならないのか」について議論を重ねた結果、JSCA関西支部内に特別委員会として当委員会を設立し、他の委員会と連携して活動することとなりました。

■脱炭素推進委員会の目的

目的：脱炭素社会の実現に向けた構造技術者の社会貢献を推進すべく、会員の

脱炭素リテラシーを強化するとともに、 会員の技術力向上を図る

2020年10月、我が国は「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわちカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。近年の地球温暖化が要因とされる異常気象などにより、皆さまも脱炭素社会実現の必要性を身近に感じてもらえることと思います。まずはリテラシーの強化として、脱炭素について詳しくなりたいと思います。

また、建築物に関連するCO2排出量は全体の約1/3程度を占めるとされており、建築分野における脱炭素への対策は非常に重要と言えます。我々は建築分野に身を置く構造設計者として、脱炭素社会の実現に貢献できる技術力を身につける必要があります。

脱炭素推進委員会は、皆さまとともに、脱炭素について詳しくなり、脱炭素に貢献できる技術力を身につけられるような活動を推進して参りたいと思います。

■脱炭素推進委員会の活動(案)

脱炭素社会の実現は全世界共通の課題

であり、すでに多くの国や地域、多くの業界や団体で取組みが進んでいます。我々もそれらの取組みに追随すべく、「構造技術者として何ができるのか、何をしなければならないのか」を考えるためのヒントとして、脱炭素推進委員会は、様々な脱炭素に関する情報を収集・整理し、皆さまに発信して参ります。また、皆さまにご参加頂ける企画等も検討中です。

皆さまが「脱炭素」というキーワードを身近に感じ、構造技術者としての活動を通して脱炭素社会の実現に貢献し、地球人の一人として全世界のために役立つことができるよう、活動して参りたいと思います。ご協力よろしくお願致します。



脱炭素推進委員会 設立メンバー

**JSCA関西サロン／関西支部事務所での
あたらしい交流会企画が始動**



**株日建設
嘉村 武浩**

JSCA関西事務所は昨年春に移転し、以前と比べて少しだけスペースが広くなりました。新しい事務所の有効活用と会員間の交流活性化を目的とした「JSCA関西サロン」というあたらしい企画が始動しました。

島野JSCA関西支部長は、JSCA関西の活動方針として「世代を超えて、そして、会社の枠を超えて、JSCAで仲間と楽しむ」を掲げています。この方針の一環として、関西支部事務所に会員同士が交流するサロンを開設。有志による月替わり店長がテーマを決め、毎月最終週の金曜日にBARを開店するという企画を考えました。この新たな試みの第1回が6月28日（金）に、第2回が7月26日（金）に開催されました。

「せっかく事務所も新しくなり少し広くなったから、夕方から会員が集ってお酒でも飲めるようになったらいいな」という軽い発言が発端でした。その後、運営会議でこれを実現する方向に議論が進み、引くに引けない状況になってしまいました。所属する会社で同様の企画が行われていたので、それを見よう見まねで初めてみたというのが実際のところでした。

■第1回JSCA関西サロン／「50歳代の集い」(Bar KAMURA)

第1回目の店長は言い出しっぺの私が担当いたしました。テーマは「50歳代の集い」です。厳密な年齢枠を設けることはせず、気持ちが50代であればOKとしました。サロンという趣旨から、ふらっと立ち寄れる雰囲気にしたかったので、事前申し込みは不要としました。そのため参加人数は当日まで分からない状況でしたが、結果として参加人数は16名。事務所スペースにちょうど良い人数でした。

缶ビール、缶チューハイ、スナック類のおつまみしか用意していませんでしたが、差し入れやカンパを募っていたこと

で、おいしい日本酒やおすすめのおつまみ等が揃い、とても和やかで楽しい会となりました。

蛍光灯の事務室では雰囲気が出ないと思い、100均で購入したひとつ100円のペンダントライトを天井に吊るし、少しでも雰囲気が出るよう工夫しました。

■第2回JSCA関西サロン／「女性のエンジニアの集い」(Bar MASUDA)

この企画をお聞きになった桃李舎の榎田さんがすぐに手を挙げて下さり、女性限定の集いが第2回として実施されました。29名 (!) もの女性のエンジニアが集まりました。中には、東京にはこのような企画がないということで、このためだけに遠方の東京から参加された方もおり、大変盛況だったそうです。第1回は参加人数の予測が難しかったため会員限定としましたが、第2回からはJSCA会

員の紹介があれば非会員の参加もOKとしています（3名の学生からすぐに入会の意思表示があったそうです）。

順調な滑り出しを見せたJSCA関西サロンは、第3回、第4回の店長も決まっており、今後の持続的な発展が楽しみです。

JSCAの活動に参加することの醍醐味は、会員間の会話の中で偶発的な気づきが生まれることにあると思います。本会がその機会の一部になれば幸いです。今後、この盛り上がりが続ぎ、JSCAの活動そのものの活性化に繋がることを願って止みません。

JSCA関西サロンの「店長」につきましては引き続き募集しております。我こそはという方は、事務局までぜひご連絡をお願いいたします！



第1回案内



第2回案内



第1回「50歳代の集い」開催風景



第2回「女性のエンジニアの集い」開催風景

■ 会員紹介



氏名 北川 大祐
勤務先 株式会社鴻池組
技術研究所
趣味 登山・車中泊
小型船舶

2018年に入社し、現場・設計部・技術研究所と設計以外の業務も担当してきました。プログラムを活用した業務効率化を模索しています。プログラム言語としてはユーザーが多く、ライブラリが充実して、かつ簡単なPYTHONがおすすめです。現在情報システム分科会に参加し、意見交換を行っております。

趣味は登山です。周辺山系の最高地点に上ることで素晴らしい達成感を得られます。景色が悪くても問題ありません。

仕事である設計業務や、プログラム開発においても、一段落したときに同様の達成感を得られます。私がこの仕事が好きなのはこの達成感だと考えています。まだまだ経験が浅いですが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



氏名 小早川 拓
勤務先 (株)日本設計
関西支社
趣味 山歩き 料理

構造設計歴は11年目になります。出身は関西ですが、就職以来住んでいた東京から2年前に転勤してきました、そのタイミングでJSCAに入会しました。

転勤前は大規模案件に長い間かかわっていて、特に超高層RCにどっぷりと浸かっていました。どちらかというと狭く深く考え込んでしまう質で、それが面白くもあるのですが、今後経験を積んでいく中で、建物や社会全体を考えたときに良い選択ができる、バランス感覚のある設計者になれたらと思っています。

昨年から地盤系分科会に参加しています。断層歩きや勉強会など、楽しみながら勉強させていただいております。

今後もJSCAを通して交流を広め、たくさんの方の刺激をいただけたらと思っています。よろしくお願ひいたします。



氏名 山崎 修裕
勤務先 山崎建築構造設計
趣味 スポーツ観戦
旅行

大学の建築学科を卒業後、総合建設会社の工事部、構造設計事務所勤務を経て、昨年4月に独立したことを機会にJSCAに入会いたしました。

これまで関わらせていただいた皆様のおかげで、一般設計や耐震関係を業務とさせていただいておりますが、まだまだ構造設計者としての知識不足、経験不足を痛感する日々でございます。

これまで、JSCAは所属先の上等の活動を通して接するだけでしたが、この度の入会をきっかけに、講習会や様々な活動への積極的な参加により自己研鑽に努め、構造設計者として成長できるよう、諸先輩方に一日でも早く追いつけるよう、日々努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひいたします。



氏名 山下 真輝
勤務先 (株)北條建築構造
研究所
趣味 旅行
プログラミング

2019年に入社し、構造設計に携わって6年目になります。JSCAには構造デザイン発表会の発表をきっかけに入会させていただきました。

これまで、学校、博物館、工場など構造形式も多種多様な構造設計をしてきましたが、まだまだ自分の技術・経験不足を痛感しております。一方で、構造設計の奥深さを自分の中で日々噛みしめ、加えて、設計や現在のJSCAの活動を通じてやりたいことが増えており、構造の楽しさも感じております。

JSCAを通じて、自分自身の技術の向上と、よりよい建物を設計できるようにと考えています。構造設計者としては、まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。



氏名 赤坂 洋平
勤務先 (株)赤坂建築構造
設計
趣味 読書

構造設計に携わり、独立をして2年と小さな事務所を主宰しています。木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造と様々な建物に関わらせて頂いており、構造設計をやるたびに、難しさと奥深さを感じております。近年は時代の流れと共に責任の明確がされ、より一層に構造に関する知識を深めていく必要があると感じております。

構造の知見を深めていくにはJSCA入会が一番だと思い、入会させていただきました。Structureはいつも読むことを楽しみにしております。まだ、JSCA活動に関わっているわけではありませんが、これから少しずつ参加できればと思っています。

まだまだ未熟者ですが、JSCAを通して構造の知見を高めていきたいと思っていますのでご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



氏名 岡川 哲士
勤務先 (株)NTTファシリティーズ
関西事業本部
趣味 ゴルフ

2011年に入社し、通信関連施設の設計や維持・改修を始め、用途・規模とも多種多様な建物の構造設計に13年間携わって参りました。JSCAには構造デザイン発表会での発表をきっかけに入会し、関西支部のRC分科会にも参加させて頂いております。

仕事では中堅としての業務への関わりが求められ、社会的責任も強く感じてきておりますが、構造設計者としてはまだまだ未熟であり、生涯にわたって見識を広げ技術を学び、研鑽し続ける使命とやりがいのある職業だと感じております。

JSCAでの交流は構造設計業界の今と未来について触れるとても貴重な機会であり、自身の成長にも繋げていきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

●事務局だより

1.支部総会

開催なし

2.支部幹事会

開催なし

3.運営会議

0725(17:00~18:00)ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

0822(18:00~20:00)ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

0926(予定18:00~20:00)

ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

4.事業委員会

0708(18:00~19:00)

場所:ZOOM会議

内容:研修会、本部企画_大阪・関西万博

現場視察について

0805(18:00~19:00)ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:研修会、本部企画_大阪・関西万博

現場視察について

0909(予定18:00~19:00)

ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:研修会、本部企画_大阪・関西万博

現場視察について

5.技術委員会

0827(予定18:00~20:00)

ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:各分科会活動、本部技術委員会報告

6.広報委員会

0918(予定18:00~19:00)

ZOOM会議併用

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:1. Structure Kansai NO. 164号
編集会議

2. Structure Kansai NO. 165号
企画会議

7.脱炭素推進委員会

0618(18:00~19:30) 第1回

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:委員会メンバー顔合わせ、活動方針
検討

0718(18:00~19:30) 第2回

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:脱炭素に関する基礎知識習得、
企画検討

0806(予定18:00~19:30) 第3回

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:脱炭素に関する基礎知識習得、
企画検討

0910(予定18:00~19:30) 第4回

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:脱炭素に関する基礎知識習得、
企画検討

8.耐震診断・補強判定委員会関西部会

0821(予定18:00~20:00) 第123回

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

0917(予定18:00~20:00) 第124回

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:耐震診断・補強計画判定の報告

9.木造住宅レビュー委員会

0723(17:30~19:00)

場所:SERB会議室

内容:レビューに関する諸問題、実務講習
会について

0820(予定17:30~19:30)

場所:SERB会議室

内容:未定

9月未定

内容:未定

10.構造レビュー委員会

開催なし

11.研究会・記念事業

開催なし

12.現場見学会

開催なし

13.研修会

開催なし

14.支部報

Structure Kansai No.162(2024.07)

発行

15.技術委員会各分科会

○地盤系分科会

0709(17:30~19:00)Zoom会議併用

場所:大林組会議室

内容:建築基礎構造設計例集の勉強会

○RC分科会

0904(予定18:00~19:30)

場所:大林組会議室

内容:AIJ大会についてほか、今年度活動
方針確認

○金属系分科会

0809(15:30~17:00)ZOOM会議併用

場所:大林組日生淀屋橋ビル5階

内容:脱炭素に向けた高炉メーカー(神戸
製鋼所)の取組み

設計事例紹介 1件

○情報システム分科会

0905(予定18:00~)

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

内容:未定

○構造計画分科会

0731(予定18:00~19:30)

場所:竹中工務店B1階T'sイノベーション
サロン

内容:設計事例紹介「長崎スタジアムシティ」

○耐震設計分科会

0718(15:00~17:00)

場所:大阪市内

内容:現場見学

○PC・工業化分科会

0731(18:00~19:00)

場所:大林組会議室+Teams会議併用

内容:設計事例紹介

○木構造分科会

0708(18:00~20:00)

場所:SERB会議室

内容:京町家簡易法ケーススタディ1

○法制分科会

0911(18:00~19:00)ZOOM会議併用

場所:JSCA関西事務局

内容:未定

○都市木造分科会

0709(16:00~17:45)ZOOM会議併用

場所:JSCA関西事務局

内容:大断面集材材について

※下線付きは拡大分科会を示す。

16.サテライト活動

・奈良会 開催なし

・京滋会 開催なし

・兵庫会 0722「神戸市安心安全ネット
ワーク情報交換会」へ出席

17.講習会

0711(13:15~17:30)

限界耐力計算による木造耐震設計法の実
務講習会 参加者19名

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

0912(予定13:15~17:30)

限界耐力計算による木造耐震設計法の実
務講習会

場所:柴田東急ビル4階JSCA関西事務局

18.親睦会

開催なし

19.関連団体との交流

開催なし

●編集後記

お忙しい中、執筆にご協力いただきまし
た方々に、心より厚く御礼申し上げます。

酷暑の夏も過ぎ、ようやく涼しくなっ
てきました。

世の中はコロナ禍前の状況にすっかり
戻ったようではありますが、水面下ではま
だコロナに罹患した、との事を聞きますの
で、まだ油断はできない状況ではあるよう
です。

大阪万博の開催まで半年余りとなり、
工事も最終段階に入っておりますが、無
事竣工し、予定通り開催されることを願っ
ております。 (大川、吉田)

発行 (一社)日本建築構造技術者協会
関西支部事務局
(下記に移転致しました)

〒550-0005

大阪市西区西本町1-7-8 柴田東急ビル402

Tel 06-4394-8433 Fax 06-4394-7566

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://jscakansai.com/>